

# 社 会 科

## 〔I〕 地理における野外学習の位置づけ

原 幸 宏

### はじめに

インドアワークにおける作業学習と相互補完の関係でとらえられる野外学習は、「地理」への関心や意欲を高める有力な学習形態であり、展開を通して指導の効果が期待できる。しかしながら、実践段階での隘路が打開されないために、不本意ながらその目標を達成しえない悩みは、多くの地理教育者の指摘するところである。地理教育に内在する諸問題のうち、とりわけ重要視せねばならない野外学習の位置づけについて、実践事例をふまえながらアプローチしてみたい。

### 1. 野外学習の認識

地理教育は、カテゴリーとして地理学の研究成果を導入し生かす応用地理学に属し、指導の基本理念は地域性ならびに地域構造の把握と解明にあるといえる。そして、地域を対象とする地理にあっては、地理学習もまた地域的に考察することを離れては存在しない。

本来、地理が「アウトドアの学問」といわれる所以でもある。地理教育における野外学習の重要性については、わが国の学習指導要領をまつまでもない。諸外国の場合でもとりわけ西ドイツが典型的であって、バーデン=ビュッテンベルグ州のギムナージムの地理教科の指導要領が、「地理教育は青少年が体験し、経験できる環境からのみ出発できる。それゆえに、郷土の景観は全地理教育の中において、とくに重要な意味をもっている。郷土の自然の装備と、自然景観から文化景観へ変わる変革を観察することが、のちに上級クラスになってから扱う別種の景観と比較して扱うことができるような観察力を十分に養うことになる。それゆえに、各学校の周辺にみられる地理的現象を集めておき、それらを生徒に触れることができるようにしておく必要がある。そのためには、野外授業や教育散歩や見学などは大きな意義がある。」と述べており、野外学習が地理教育の基盤であることを強調している。

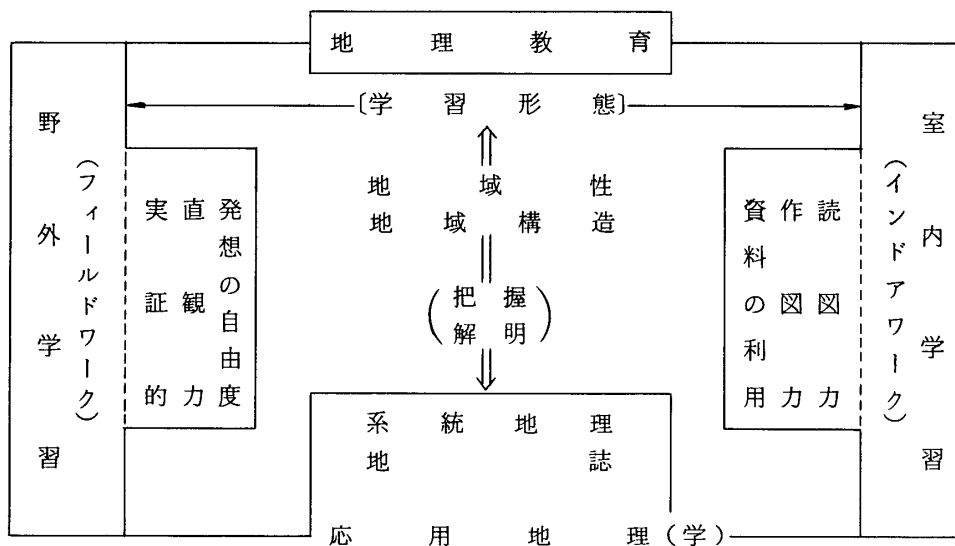


図1. 地理教育における野外学習の相互関係

野外学習の地理教育における位置づけを学習形態からみれば、図1に示すように室内学習との対比で把握される。これは、野外学習がアウトドアワークであるのに対して、室内学習がインドアワークであるとの概念規定に基づくものである。野外学習は室内学習との

間に、地理教育上の質的性格の差異と関連性が存在することを認識しなければならない。質的性格は、野外学習の場がフィールドであることによって実証的・直接的に学習できること、地理的環境にあって諸事象を総合的・部分的に把握できること、地理学習の手法が

実地に会得できることなどが、室内学習と大きく異なる点である。野外学習を地理教育の導入論であるとの捉え方もあろうが、両者の関連は密接不離であるといわねばならない。このことは、野外学習による体験や習得した成果が室内学習の場において、時宜をえて応用され、発展的に滲透することを意味するものである。野外学習の実践は、そうした可能性に裏打ちされたものでありたい。また、そこにこそ野外学習の意義が認められうるものであろう。一般にいわれる地理的見方・考え方、地理的感覚、地理的認識が、概念として理解されたとしても、地理学習を通して涵養され機能しない限り；それらは観念的にしか過ぎず、会得されたとは云い難いのである。このように、フィールドワークとインドアワークは有機的に対応し、関連しあうものと考えられ、野外での学習は、地理教育にとって不可欠な条件として、その重要性が認識されるのである。

## 2. 時間設定からの類別

野外学習を実施するにあたっては、フィールドの選定と一定の時間設定をしなければならない。この場合、地理の学習内容の全領域をふまえた上でフィールドを選定するのが望ましいけれども、学校の所在する位置およびその周辺のフィールドそのものによって制約される。こうした制約条件を受けながらも典型的な地域を選定し、その中で学習内容を設定時間との調整で編成する。時間設定は、一般に授業時間内と授業時間外とに大別され、前者は、1単位時間と6単位時間(終日)の場合が多く、後者は、教育課程編成に組み込まれている各教科以外の活動(中学校では特別活動)を利用する場合とそれ以外の休暇を利用する場合とに類別されよう。このように類別される野外学習について、実践例を要約して報告する。

### (1) 授業時間内の場合

#### (イ) 1単位時間による野外学習……〔高校〕

時期：4月中に1クラス単位で3回実施

行程：3kmを徒歩で巡検

学習内容：①測定…池の面積・建造物の床面積(歩測による方法)、太陽と時計による方位②観察…洪積層(八事面)の露頭の礫、低位洪積層(熱田面)との対比、高塔・墓地、丘陵地の住宅化、天白川の浸食地形、雨食作用による露頭地形と崖、区界(家屋の表札)高層建築物(5階以上)、道路(幅員による相違)以上の各事項は、いずれも携行する地形図(2.5万分の1)との対照により、省略あるいは記載されていないもの、注記してある事項を発見するよう示唆し、起伏のある地形と等高線との関係、植生分布に留意する。

携行品：野帳など筆記用具・時計・2.5万分の1の地形図「名古屋南部」…必携、カメラ・磁石…自由

学習の流れ：事前学習2時間—野外学習—事後学習(1時間…報告書のまとめ方と質問)

報告書に書かれた生徒の感想・評価を示せば次のとおりである。

P<sub>1</sub>：実際に自分の足で歩いて学ぶと、本当に頭の中にはいるのかも知れないと思った。

P<sub>2</sub>：知らないことがわかり、地図を見て歩くということはむづかしいけれど、おもしろいことだと思ひ、機会があったら友達と地図をもって歩きたい。

P<sub>3</sub>：歩くのにやっとなで、途中で登りと下り坂がきつく充分観察ができなかった。

P<sub>4</sub>：1時間の内容が多すぎ、はじめてきく言葉がたくさんあってメモをとるのに時間がかかりすぎた。

P<sub>5</sub>：学校のまわりにこんなたくさん(地理)の教材があるなんて知らなかった。案外近くにあるものほど気がつかないのだなと思いました。……地理っておもしろいな、と思いました。

以上は、全生徒(高校1年)の提出した報告書の一部を抜粋したものである。

報告書にルートマップを記載した者は、全体の82.7%であり、この中で作図の基本的項目について評価すれば、表1に示すとおりである。

区分 クラス 項目	記載した者				未記入の者
	A	B	C	学年計	学年計
縮尺	50.0	39.3	42.9	44.5	55.5
方位	87.5	32.1	71.4	67.3	32.7
観察地点	72.5	42.9	66.6	62.7	37.3

(注) ルートマップの記載者は82.7%  
単位：%

表1. 作図の基本事項の調査結果

3学級によって構成される当該学年であるため、報告書の作成にあたっては、生徒レベルでの情報交換が相当あったものと推察される。学級間にみられる差は、そうした結果であると判断する。学校所在地から1km内外のフィールドであるため、報告書作成の段階で若干名が再度フィールドに出ている。

#### (ロ) 6単位時間による野外学習……〔中学校〕

時期：5月に2クラス一斉に実施

方法：チャーターバス2台による巡検で、重点的な観察や見学地点は下車して聞きとり中心とし、その他は車窓景観からの観察を中心とする。

巡検コースと主な学習事項

本校 —— 八事 —— 相生山 ——  
 8:30発 洪積層八事面<sup>Ⓒ</sup> 住宅化<sup>Ⓒ</sup>

有松 —— 見晴台 ——  
 伝統産業(有松校)<sup>Ⓒ</sup><sup>Ⓓ</sup> 弥生式遺跡<sup>Ⓓ</sup>  
 街村集落<sup>Ⓒ</sup> 出土品と地層<sup>Ⓓ</sup>

九号地 —— 南陽通り ——  
 エネルギー基地<sup>Ⓒ</sup> コンビナートのはしり<sup>Ⓒ</sup>  
 臨海工業地域<sup>Ⓒ</sup> <sup>Ⓓ</sup>

—— 内田橋 —— 断夫山 —— 貯木場 ——  
 海上七里の渡し跡<sup>Ⓓ</sup> 古墳<sup>Ⓓ</sup> 営林事業<sup>Ⓒ</sup>

大須 —— 若宮大通り —— 学校(15:40着)  
 門前町<sup>Ⓒ</sup><sup>Ⓓ</sup> 都市計画街路<sup>Ⓒ</sup>

(注) <sup>Ⓒ</sup>…地理的学習分野 <sup>Ⓓ</sup>…歴史的学習分野  
 ※…下車地点

中学校の地理的分野における野外学習は、観察と見学を主体としながら、歴史的分野との一体化による展開である。地理的分野のみに偏重しないよう配慮しつつ、その中において地理的見方・考え方を養い、とりわけ地形図と現地の照合・確認が同時に読図力の涵養となるよう留意する。見学地においては、直接業務に携っている人から解説を受け、生活の実態をより直接的に把握できるようにする。

授業担当者が直接指導に当たるが、担任の協力指導をも受け、社会科全体の協力体制のもとで実施する。

(2) 授業時間以外の場合

時間設定の際の学習形態は先に述べたとおりである。ここでいう授業時間以外の場合とは、休曜日(期間)を利用する野外学習ではなく、表2に示すような各教科以外の教育活動の場を有効的に活用しつつ、地理的野外学習の可能性を追求しようとするものである。

各教科以外の教育活動は、教育課程の編成からみても

各教科以外の教育活動	内 容	設定時間
学校行事	※遠足, オリエンテーリング, 社会見学	半日~1日
	※林間学校, 臨海学校, 修学旅行	数日
	※研究旅行など	
クラブ活動	郷土研究, 地場産業研究, 鉄道研究など	週に1時間

※ 本校で実施されているもの

表2. 教科外活動と野外学習の関連

明白なように、いずれも独自の目標があり、活動内容をもって位置づけられている。科目としての地理にも、教科教育としての目標があり、系統的に学習する内容をもっている。このように性格を異にし、二面性をもつ教育活動において、各教科以外の教育活動の場に地理的野外学習を位置づけしようとすることは、本来矛盾し誤りであろう。しかしながら、各教科以外の教育活動とは、学校行事やクラブ活動などである。これらのうち、クラブ活動の眼目は個々の生徒の趣味や特技を育てることであり、学校行事には特質をもついくつかの内容がある。特に、指導計画の作成にあたっては、学校の創意と教育的識見を生かすことが肝要であるとされている。そして、教科以外の教育活動は、各教科・科目とあいまって学校教育の目標を達成するために、その内容の充実や改善を図ることに力点がおかれ、生徒の多様化による弾力的な運営が望まれている。このことから、地理的な野外学習が特設できるものではないにせよ、生徒の実態や学校の実情に応じて可能性を見出すことができる。クラブ活動の事例でいえば、郷土クラブは典型例の1つであり、学校行事では修学旅行など主として校外活動の利用においてである。クラブ活動は、週当たり1単位時間の設定であれば、年間30時間前後となるであろうし、学校行事の場合は種別によって設定時間に長短があろう。このような設定される時間にも活動内容からの制約を受け、指導者が地理教師に限定されない無原則であるために、その成果は生徒自身の力量に負うところが大きいといえよう。従って、地理的な野外学習の位置づけは、一部の生徒を対象に、あるいは部分的に総合化された中において可能であり、それなりの効果的利用が期待されるであろう。以上のような実践事例は種々あり、参考となる場合が多い。

中学校における特別活動の内容は、生徒活動・学校行事・学級指導の3領域であり、これらの内容のうち野外学習と関連性のあるものは表3に示すようなものがあげられる。

クラブ活動は、共通の興味や関心をもつ生徒をもって組織するので、例えば、郷土研究や鉄道同好会の類が想定される。学校行事のなかでは、学芸的行事と旅

特別活動	活 動 内 容
クラブ活動	文化的活動
学芸的行事	学習活動の成果を総合的に生かす
旅行的行事	見聞を広める体験活動

表3. 中学校における野外学習に関連する特別活動

行的行事があげられ、なかでも旅行的行事は、他地域での異った生活環境の中で見聞を広め、体験を積むことであれば最も野外学習に近い行事である。

### 3. 他科目との関連

地理は科目の性格および内容からみて、他の科目との関連性が強い。学習の展開にあたって、常に留意せねばならないといわれるのもこのためである。自然地理の分野では地学・生物、人文の分野では歴史（日本史・世界史）、世界地誌では世界史、野外学習では地

学・生物・歴史といったようにそれぞれ関連が深く、地域における諸事象の把握は、指導上こうした関連科目の留意によって、より確かなものとなる。

ここでは、授業展開の形態を野外学習に求めた場合の地学との合同実習、いわば地学とのブリッジ方式を試みた実践例をとりあげてみる。その要旨を示せば次のとおりである。指導者は巡検説明にあたって付表のように乗車交代をし、学習効果をあげることに努め、選定したフィールドの主要部は図2-1に示すとおりである。

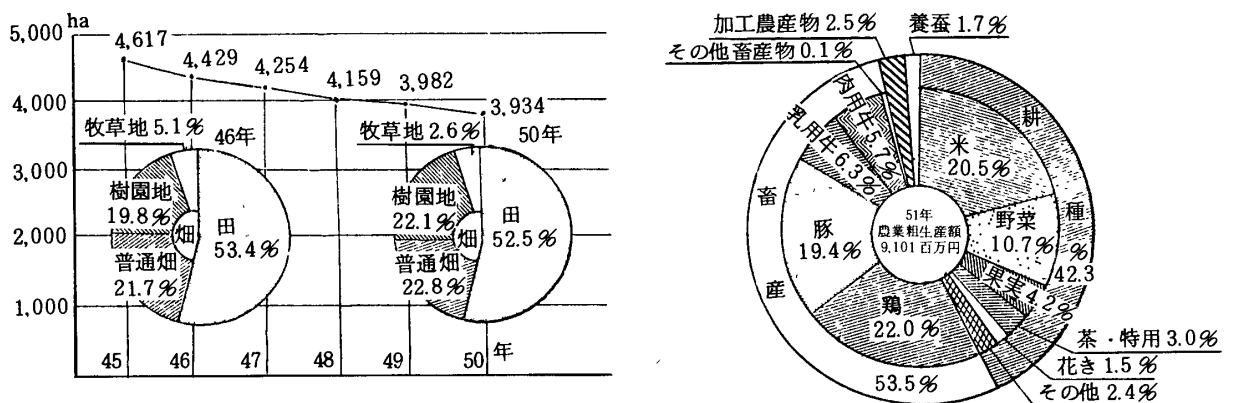
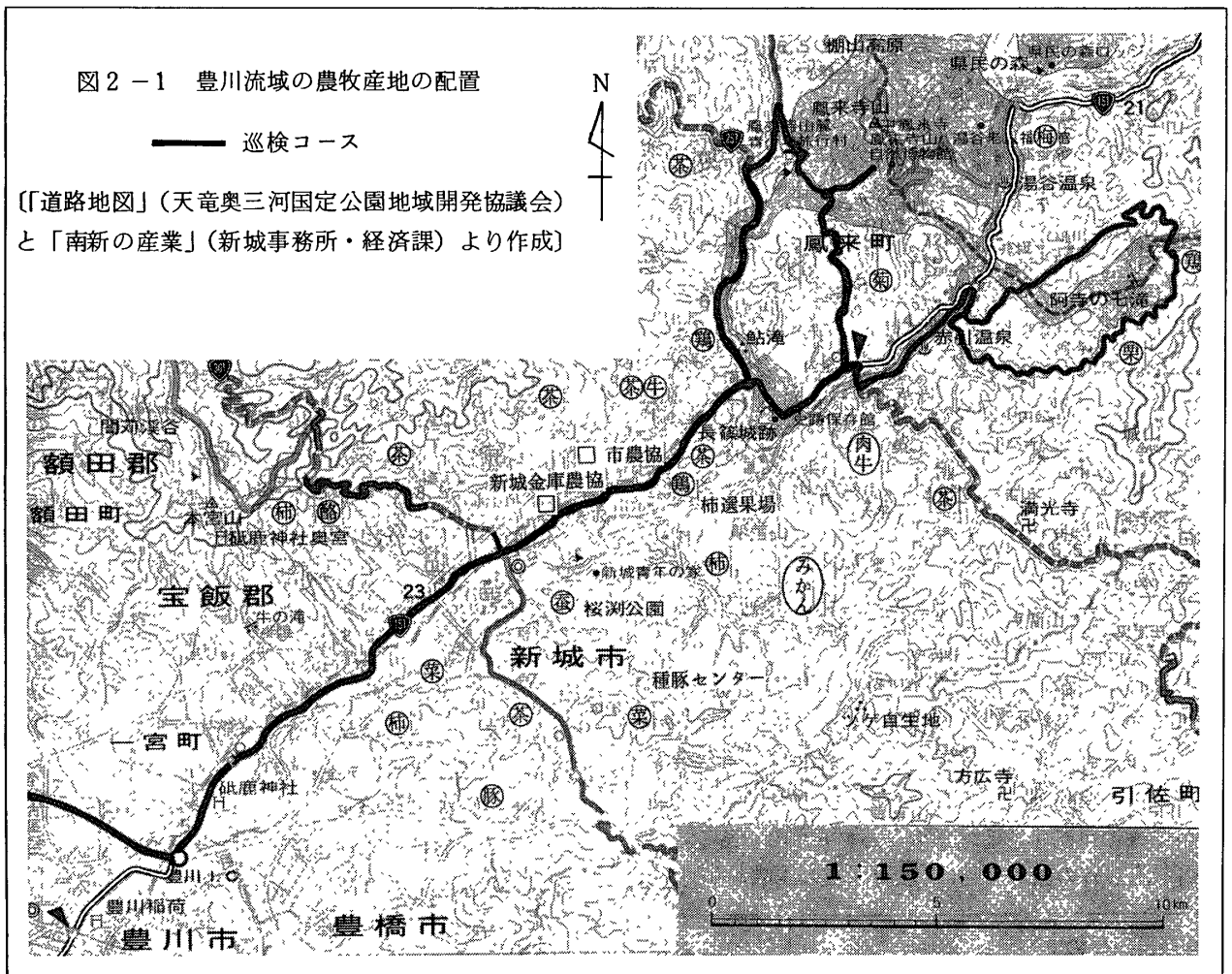


図2-2 南新地域における耕地面積の推移と農業粗生産額 (「南新の産業」による)

地理・地学合同野外実習

日 時 昭和53年4月20日(木) 午前8時30分～午後4時5分

目 的 適切な教材が揃うフィールドとして豊川水系・鳳来町を特定し、地理・地学の合同野外実習によって学習効果をあげる

指 導 者 高須 明(地学担当) 原 幸宏(地理担当) 三橋 一夫(生物担当)

協力指導者 杉山 光男 山田 雄一 佐藤 博子

参 加 者 高校1年 全員137名

学 習 内 容 地 理： 河岸段丘・隆起準平原・メジアンライン・メアンダー・浸食谷・谷底平野など地形学習，ならびに林相と経済林・豊川用水路(頭首口と水資源の利用)・街村集落・山村集落・土地利用など人文事象の学習

地 学： 内帯・外帯の岩石，断層谷，断層圧砕岩，巢山礫岩，礫岩中の滝，砂岩泥岩の互層と安山岩脈，段丘礫，礫の形状と河川について学習

巡検コース (別紙地図 cf.) 集合8:30(本校)——名古屋I・C——<東名高速道路>——豊川I・C——<国道151号線>——三河一宮——新城——※本長篠——小野——※細川——巢山——※阿寺七滝(阿寺川)——※鳳来寺山自然科学博物館——採石場——玖老勢——大海——長篠——<国道151号線～東名高速道路 経由>——本校 帰着16:05 解散

※ 下車地点……学習所要時間30～40分

服装及び携行品 遠足時に準じ、フィールドワークにふさわしい服装(医薬品) 昼食・水筒・雨具，地形図(図幅「三河大野」「御油」)，地勢図(図名「豊橋」)，関係資料(24ページの冊子)，地質図(図名「愛知県」)，カメラ・磁石・ルーペ・新聞紙・フィールドノート等筆記用具・採集用具

備 考 バス(チャーター)3台に分乗

<付 表>

巡検コース	クラス		
	A組 (3号車)	B組 (2号車)	C組 (1号車)
出 発	原	三橋	高須
豊川インターチェンジ	杉山 佐藤	山田	
	高須 杉山 佐藤	原 山田	三橋
鳳来寺山自然科学博物館			
帰 着	三橋 杉山 佐藤	高須 山田	原

4. ま と め

本稿と同様の主題で発表した機会において、提起された問題点をここで取り上げ、これに回答することによって結びとしたい。

① 野外学習実施前後における授業の扱いは、どのようにしているか。(愛知・市邨学園高)

- ② 事後指導と評価はどのようにしているか。(奈良県教育センター)
  - ③ 生徒の理解度は、どのようなかたちで把握されているか。(静岡・浜松湖東高)
  - ④ 社会科で求めている能力，例えば，読図力や資料を読み取る能力などの調査・考察はなされているか。(愛知・津島高)
  - ⑤ 野外学習の時間設定に際し，時間割の問題への対処の仕方，他教科との授業調整，あるいは年間計画にどう組み込むのか。(岐阜・土岐高，愛知・千種高)
  - ⑥ 年間授業計画の中での野外学習の位置づけと，継続化・系統化についてどう考えるか。(愛知・相山女学園高)
- 以上提起された各事項について，実践事例に基づいて述べてみる。

①' 事前指導の時間配当は，野外学習1時間の場合に2時間，終日・6時間の場合に4時間とし，学習内容の徹底を図るために，背面黒板の利用や資料(冊子・地形図・地勢図)とフィールドノートの併用による事前指導する。事後指導は，主として報告書の

作成要領を指導するために授業時間1時間を充て、その後の授業、なかでも地形(図)学習において、野外学習の成果が発揮されるように場の構成を配慮するなど発展的な展開手法に留意する。

- ②' 前述したように、報告書として提出されるが、それ自体の評価より指導上の反省材料とする。自由な発想を重視する立場から、報告書には発見事項・疑問点・感想を記述させ、参考資料を明記させる以外は制約的な規定を設けず、ルートマップや図表などは望ましい程度の示唆に留める。体験学習を契機にその後の授業において、地理的思考・認識が醸成され深化し、有機的に増幅される過程を評価したい。従って、野外学習後の学習内容との関連で可能な限り考査によって成果をも同時に評価する。
- ③' 理解度の把握は、提出される報告書の内容をとおして全般的な傾向や個人についても理解・認識の程度がわかる。画一的な出題方法によるよりも、地理観などを総合的に捉えられることはいうまでもない。全体的な傾向について、その一部をまとめたものが表1である。野外学習後の室内学習(特に地形図を教材とした授業)にどう反映し、生かされるかの過程においても理解の程度の把握は継続されるべきであろう。
- ④' 地理教育にとって指導上極めて重要な問題であり、授業体験から傾向としては捉えられても、客観的な調査・分析は容易ではない。それは、個別的形態をとらざるをえない面が強くなるからである。同一出

題形式をとる定期考査において、関連付図(資料)を掲げて端的に掌握できる程度で、詳細な調査・分析を試みるまでにはいたっていない。

- ⑤' 編成されている授業時間割を変更する場合は、6時間(終日)配当の野外学習の例で、学校行事的な取り扱いで年間計画に位置づけ、学年全体が野外学習となる。当該学年に多い授業担当者や担任に協力指導を依頼して実施する。
- ⑥' 地理の年間授業計画における野外学習の設定は、年度当初とし、事前学習に授業として4単位時間を充てるので、4月下旬に実践することとなる。

#### 参考文献

1. 尾留川正平編「地理学研究法」—『朝倉地理学講座2』朝倉書店
2. 位野木寿一・沢田清編著「指導のための野外観察」中教出版
3. 加藤武夫・安積紀雄・新延和子「遠足を利用した地理巡検」地理月報 第143号 1968年 二宮書店
4. 原 幸宏編・外国研究クラブ活動集録「外国研究」愛知県立横須賀高校

本稿は、1977年11月11~12日の中等教育研究協議会(名古屋大学教育学部附属学校主催)において、「地理における野外学習の位置づけ」と題し、発表したものに加筆修正したものである。